

歴史と地域文化 (History and Local Culture)			担当教員	久保 智康	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1225	2	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
地域の歴史・文化は、そこに住む人がかたち作っていくものである。と同時に、それは時代の経過とともにより豊かなものになり、次の世代へと受け継がれていくのが望ましい。すでに過去から蓄積された福井の地域文化を歴史の中にたずね、それを受け継ぎ発展させる具体的方策を考える。
授 業 の 到 達 目 標
・他者だけでなく自己も地域の歴史・文化をかたち作る主体であることを理解できる。 ・そのために、地域の人々とのコミュニケーションが積極的に行える。 ・地域の歴史・文化に関する情報収集・探索能力を養成する。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表 (プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他 (具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回: 「地域」、「文化」とは何か 事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間) 第 2 回: 地域の文化財を発見し学ぶ～『文化財からみる越前市の歴史文化図鑑』の読み方、使い方～ 事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間) 第 3 回: 縄文・弥生土器からみる「地域」 事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間) 第 4 回: 律令時代の土器が示す「中央」と「地方」 事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間) 第 5 回: 古墳の分布が示す「地域」～「郡」という地域概念の萌芽～ 事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間) 第 6 回: 土地と人の支配の歴史～徴税・納税の根拠～ 事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間) 第 7 回: 条里制と東大寺領荘園の痕跡を見つける 事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係

しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間)	
第8回: 近代、そして平成の市町村合併	
事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間)	
第9回: 琉球、沖縄と越前～本土と沖縄の歴史と宗教～	
事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間)	
第10回: 福井が「仏教王国」である理由	
事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間)	
第11回: 各宗派の特徴と古代・中世越前における展開	
事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間)	
第12回: 山寺と霊山	
事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間)	
第13回: 越前の神と仏	
事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間)	
第14回: 「念仏王国」、越前	
事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間)	
第15回: 地域に住むこと、離れること	
事前学習: 中学で学んだ程度の日本歴史は復習しておくこと。テキストと福井新聞など地元紙に目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。(2時間) 事後学習: 各回に配布した資料、取り上げたテキスト頁を、講義内容・投影画像を振り返りながら熟読すること。 授業で推奨したテキスト掲載の遺跡・寺社等にできるだけ足を運んで、現場確認すること。(2時間)	
第16回: 定期試験	
成績評価方法	
定期試験(80%) 平常点(20%) (平常点は授業への参加状況、受講態度等で総合的に判断します。)	
成績評価基準	
地域の歴史・文化に関する過去・現在の事例に関して、自己の問題として認識し、具体的な関わり方を想定できるか。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて	
■ 授業時	□ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて	
■ 授業時	□ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
3) 小レポートに対するフィードバックについて	
□ 授業時	□ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて	
□ 定期試験時	□ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて	
□ 授業時	□ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

・経歴

（県立博物館・国立博物館学芸員）

・実務経験と授業内容との関連性

（県立博物館、次いで国立博物館で学芸員として歴史・文化財の調査・研究・展示に携わった経験を有する教員が、地元出身者が大半を占める学生に対して、福井を中心とする歴史と地域文化について解説し、それらを保存・継承が地域発展に資することを考えさせる。）

テキスト、参考図書

テキスト：『文化財からみる 越前市の歴史文化図鑑』（監修）橋本政宣・久保智康 越前市
※第2回目の授業時に販売

その他（受講上の注意）

できる限り前列の席で受講すること。画像を使用するが、漫然と見ているだけでなく、要点を極力ノートすること。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

人間と環境A (Human Beings and the Environment A)			担当教員	鳴瀬 碧	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-2130	2	1 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 環境・健康科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実証的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力					
☐ 計画実行能力 ☒ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
ヒトの健康の保持・増進における食・栄養の重要性を理解し、私たちを取り巻く生活環境や様々な情報、そして食生活の変化が、人体の持つ特性(恒常性)を妨げ、私たちの健康維持にどのような影響を与えているかについて学習する。 これらのことを通して、食品、サプリメント、薬等、普段私たちの身近にあるものに関して、その必要性や効果を正しく理解し、情報に惑わされることなく自らの判断で必要な情報や商品を選択・活用し、個々の健康な生活に役立てることができる。
授 業 の 到 達 目 標
・健康についての基本的な概念や制度、健康の維持・増進のために重要な事項、問題点等について説明できる。 ・世界と日本の食文化や現在の食糧事情について説明ができる。 ・食生活について栄養の重要性や食品の安全性、運動との関わり等について理解し、説明ができる。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表(プレゼンテーション) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(具体的に記述: DVD 視聴)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回: 健康とは何か? 事前学習: 授業前にテキストの第 1 章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習: 授業で学習した内容を復習し、フードマイレージ・仮想水についてまとめておくこと(2 時間) 第 2 回: 食の歴史 事前学習: 授業前にテキストの第 2 章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習: 授業で学習した内容を復習しておくこと(2 時間) 第 3 回: 健康に関する社会制度 事前学習: 授業前にテキストの第 3 章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習: 授業で学習した内容を復習し、健康に関する社会制度についてまとめておくこと(2 時間) 第 4 回: 世界の食(DVD 視聴) 事前学習: 授業前にテキストの第 4 章を読み、世界の食文化に対する興味を深めておくこと(2 時間) 事後学修: 課題レポートの作成(2 時間) 第 5 回: 日本の食①(日本の食文化)(講義・DVD 視聴) 事前学習: 授業前にテキストの第 4 章を読み、日本の食文化に対する興味を深めておくこと(2 時間) 事後学習: 日本の行事食の持つ意味について、レポートを作成し提出すること(2 時間) 第 6 回: 日本の食②(日本各地の食文化)(講義・DVD 視聴) 事前学習: 授業前に自身の出身地の食文化について調べておくこと(2 時間) 事後学習: 福井県の郷土料理について、レポートを作成し提出すること(2 時間) 第 7 回: 栄養と健康①(自分の食生活を見つめてみよう)(講義・実習: BDHQ による自身の食事摂取状況の把握) 事前学習: 授業前に自身の食生活・生活習慣の振り返りをする(2 時間) 事後学習: 授業で学習した内容を復習し、食生活・生活習慣がなぜ大切かをノートにまとめておくこと(2 時間) 第 8 回: 栄養と健康②(栄養学の基礎) 事前学習: 授業前にテキストの第 5 章 p.59~73 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習: 授業で学習した内容を復習し、栄養学の基礎項目をノートにまとめておくこと(2 時間) 第 9 回: 栄養と健康③(疾病予防のための食生活) 事前学習: 授業前にテキストの第 5 章 p.76~97 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習: 授業で学習した内容を復習し、疾病予防のための食生活についてノートにまとめておくこと(2 時間) 第 10 回: 栄養と健康④(栄養と運動) 事前学習: 授業前に栄養と運動に関する気になるニュース・情報を収集しておくこと(2 時間) 事後学習: 授業で学習した内容を復習し、健康保持・増進のために必要な栄養と運動についてノートにまとめておくこと(2 時間)

第 11 回:食品の安全と健康①(食品の安全と健康被害)

事前学習:授業前にテキストの第 6 章 p.98~112 を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間)

事後学習:授業で学習した内容を復習し、食品の安全と健康被害についてノートにまとめておくこと(2 時間)

第 12 回:食品の安全と健康②(食と健康をめぐる情報)(フィールドワーク)

事前学習:授業前に食品表示に関するニュース・情報を収集しておくこと(2 時間)

事後学習:授業で学んだ食品表示方法を、スーパーマーケット等で実際に確認し、レポートにまとめ提出すること(2 時間)

第 13 回:食品の安全と健康③(サプリメント～情報に惑わされないために～)

事前学習:授業前にサプリメントに関するニュース・情報を収集しておくこと(2 時間)

事後学習:授業で学習した内容を復習し、サプリメントについてノートにまとめておくこと(2 時間)

第 14 回:医薬品とは?

事前学習:授業前に医薬品の種類・医薬品とサプリメントの違いについて調べておくこと(2 時間)

事後学習:授業で学習した内容を復習し、医薬品の種類・医薬品とサプリメントの違いについてノートにまとめておくこと(2 時間)

第 15 回:大麻・麻薬・覚せい剤の基礎知識と乱用防止(DVD 視聴)

事前学習:授業前に薬物乱用に関する社会問題について調べておくこと(2 時間)

事後学習:薬物乱用の危険性について課題レポートの作成(2 時間)

第 16 回: 定期試験

成績評価方法

定期試験(70%)、課題レポート(20%)、平常点(10%)

(平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断する)

成績評価基準

- ・健康の概念、健康の維持・増進について理解できているか。
- ・食の歴史や文化、日本の食糧事情や食を取り巻く環境について理解できているか。
- ・栄養素の機能、食品の安全性、栄養と運動の関わりについて理解できているか。
- ・食品、サプリメント、医薬品、麻薬・覚せい剤について正しく理解できているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(薬剤師・健康運動指導士・ピラティストトレーナー)

・実務経験と授業内容との関連性

(薬剤師としての医療提供施設での実務経験と健康運動指導士・ピラティストトレーナーとしてのスポーツ・健康増進関連施設での実務経験を活かし、国が展開する健康づくりに関する施策、医療保険をはじめとする社会保障の仕組み、生活習慣病予防・改善のための運動と栄養、サプリメントや健康食品、医薬品の分類やその違い、麻薬・覚醒剤・デザイナーズドラッグに関する基本的知識や危険性などについて解説する。)

テキスト、参考図書

吉田勉監修 『私たちの食と健康－食生活の諸相－』 三共出版 2011 年

必要に応じて、講義用資料を出席者に配布する。

その他(受講上の注意)

- ・新聞・ニュース等で報じられる食糧事情、食を取り巻く環境、健康の維持・増進に関する項目について日頃から興味を持つように努めること。
- ・各回の講義内容についてよく復習し、各自が書籍や新聞などから積極的に情報を収集し、自己学習すること。
- ・授業中の不明な点は、授業の前後に教員に質問するなどして理解を深めること。
- 「自身の健康とは何か」「心身ともに健康に生きていくために重要なこと」等についてよく考えてください。
- ・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。
- ・課題レポートなどは、提出期限を必ず守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

人間と環境B (Human Beings and the Environment B)			担当教員	大久保 嘉雄	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-2231	2	2 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 環境・健康科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実証的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
生態系の一員である人間が自然環境とどのように関わってきたのかを学び、これからどうあるべきかを考える。 その基礎として、生物の生活や行動、からだのしくみを、進化の視点も交えて学ぶことにより、生物そのものと生態系の理解を深める。
授 業 の 到 達 目 標
人間がどのように自然環境と関わっていけばよいかを説明することができる。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表 (プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他 (具体的に記述：)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回 コウノトリと福井県 事前学習: コウノトリはどんな鳥か調べておくこと。(2時間) 事後学習: 他県のコウノトリの放鳥についてまとめておくこと。(2時間) 第 2 回 コウノトリの復活と生態系の保全 事前学習: トキの放鳥について調べておくこと。(2時間) 事後学習: コウノトリが福井県に定着するために必要な施策をまとめておくこと。(2時間) 第 3 回 ニホンオオカミの絶滅とツキノワグマの捕殺問題(アンブレラ種、キーストーン種) 事前学習: ツキノワグマとヒグマのちがいを調べておくこと。(2時間) 事後学習: 絶滅危惧種1種以上を例に、生態系で果たす役割をまとめておくこと。(2時間) 第 4 回 外来生物と生態系の保全(生態的地位、遺伝子交雑) 事前学習: 外来生物を3種類あげ、その移入経緯や影響などを調べておくこと。(2時間) 事後学習: 日本から外国へ広がった外来生物1種以上を例に、その移入経緯や影響についてまとめておくこと。(2時間) 第 5 回 生物多様性の確保(国際条約、遺伝子かく乱) 事前学習: 出身県または福井県のラムサール条約の湿地について調べておくこと。(2時間) 事後学習: 身近で生物多様性に取り組んでいる活動をまとめておくこと。(2時間) 第6回 小レポート、視覚と行動(眼の進化、白目と意思疎通) 事前学習: 第1回から第5回までの講義内容をまとめておき、小レポートに備える。(2時間) 事後学習: イヌやネコなどの身近な動物の白目の有無や、目と目を合わせたときの反応や行動をまとめておくこと。(2時間) 第7回 色覚と進化(色覚と行動様式) 事前学習: ヒトの色を感じるしくみについて調べておくこと。(2時間) 事後学習: 2色型色覚動物の日常生活を疑似体験して起きたことをまとめておくこと。(2時間) 第8回 動物の生活と行動(食べる心配、食べられる心配) 事前学習: 食物連鎖におけるエネルギーの流れや生態ピラミッドを調べておくこと。(2時間) 事後学習: 食物連鎖における一次消費者から高次の消費者をそれぞれ1種以上を例に、その生き方を食べる心配と食べられる心配という観点から説明できるようにまとめておくこと。(2時間) 第9回 生物を理解する視点(形態、生活場所、生活のしかた) 事前学習: 主な進化論について調べておくこと。(2時間) 事後学習: 野外の動物1種以上を例に、その形態と生活場所、生活のしかたを関連させて説明できるようにまとめておくこと。(2時間) 第 10 回 骨格と進化(外骨格と内骨格、気管と循環系) 事前学習: この1週間に会った生き物を、内骨格と外骨格、無脊椎動物に分類しておくこと。(2時間) 事後学習: 事前学習であげた動物を動物の系統樹にあてはめ、身体を支えるしくみを説明できるようにまとめておくこと。(2時間)

第11回 動物の社会、人間の社会（社会性動物、利己的な遺伝子）

事前学習：群れをつくる動物1種以上を例に、その社会構造を調べておくこと。（2時間）

事後学習：ハダカデバネズミの社会構造をまとめておくこと。（2時間）

第12回 人間と食物（栽培植物の起源、発酵食品）

事前学習：身近な野菜の原産地を調べておくこと。（2時間）

事後学習：日本原産の野菜や果物をそれぞれ1種以上を例に、その原種や品種などをまとめておくこと。（2時間）

第13回 人間は科学をどのように生かすのか（バイオテクノロジー、ノーベル賞医学生理学賞）

事前学習：遺伝子組み換え不使用の表示のある食品とその原料を調べておくこと。（2時間）

事後学習：発酵食品1種以上の作り方や、iPS細胞の臨床的な応用をまとめておくこと。（2時間）

第14回 日本人の起源とヒトの進化

事前学習：縄文時代と弥生時代の年代や特徴を調べておくこと。（2時間）

事後学習：縄文人顔と弥生人顔の特徴から、家族や友人などを観察してまとめておくこと。（2時間）

第15回 地球の環境問題、身近な植物の利用

事前学習：COP25の動向を調べておくこと。（2時間）

事後学習：地球の温暖化の原因とその対策をまとめておくこと。（2時間）

第16回 定期試験

成績評価方法

定期試験(40%) 講義資料と小レポートおよび平常点(60%)

(講義時に配付する資料に事前学習や当日の講義について書き込みます。小レポートは、4～5回分の事後学習について書きます。平常点は、授業への参加状況・受講態度、講義資料と小レポートの提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

生物の生活や行動、社会、からだのしくみを説明することができるか。その際に、進化の視点が入っているか。

生態系における、生物と自然環境の関係を説明することができるか。

人間の自然環境への影響を説明し、今後の関わり方を論じることができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(元高校教諭)

・実務経験と授業内容との関連性

(学校現場における教員経験を有する教員が、「人間はどのような自然環境と関わるべきか」を、生物の生活や行動、生態系、生物多様性などを進化の視点を交えて解説する。)

テキスト、参考図書

必要に応じて、講義用資料を配付したり、参考図書等を指示します。

その他(受講上の注意)

講義資料にはコメントを書いて返却します。遅刻の時間や回数に応じて欠席と見なすことがあります。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

情報処理演習a (Information Processing Practicum a)			担当教員	竹村 順吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-2251	2	2・3 年前期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実証的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
□自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。
授 業 の 到 達 目 標
・一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 ・本授業では、情報処理技術者試験の一つである「IT パスポート試験(i パス)」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。 参考 IT パスポート試験シラバス (https://www.jitec.ipa.go.jp/1_13download/syllabus_ip_ver3_0.pdf)
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表 (プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他 (具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
テキストに従って進めるが、毎授業の 15 分間程度は演習問題を採り入れる。 第 1 回: IT パスポート試験の概説、サンプル問題 事前学習: テキスト「試験の概要」、「出題範囲」を読み、試験概要について予習する(0.5 時間) 事後学習: サンプル問題の復習(0.5 時間) 第 2 回: 第 1 章 企業と法務(1) 事前学習: テキスト「1-1」を読み予習する(2 時間) 事後学習: 本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間) 第 3 回: 第 1 章 企業と法務(2) 事前学習: テキスト「1-2」を読み予習する(2 時間) 事後学習: 本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間) 第 4 回: 第 2 章 経営戦略 事前学習: テキスト「2-1」～「2-3」を読み予習する(2 時間) 事後学習: 本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間) 第 5 回: 第 3 章 システム戦略 事前学習: テキスト「3-1」～「3-2」を読み予習する(2 時間) 事後学習: 本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間) 第 6 回: 第 4 章 開発技術 事前学習: テキスト「4-1」～「4-2」を読み予習する(2 時間) 事後学習: 本日採り上げた範囲について復習、章末問題(2 時間) 第 7 回: 第 5 章 プロジェクトマネジメント 事前学習: テキスト「5-1」を読み予習する(2 時間) 事後学習: 本日採り上げた範囲について復習、章末問題(2 時間) 第 8 回: 第 6 章 サービスマネジメント 事前学習: テキスト「6-1」～「6-2」を読み予習する(2 時間) 事後学習: 本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間) 第 9 回: 第 7 章 基礎理論(1) 事前学習: テキスト「7-1」を読み予習する(2 時間) 事後学習: 本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間) 第 10 回: 第 7 章 基礎理論(2) 事前学習: テキスト「7-2」を読み予習する(2 時間) 事後学習: 本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間)

第 11 回:第 8 章 コンピュータシステム

事前学習:テキスト「8-1」～「8-4」を読み予習する(2 時間)

事後学習:本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間)

第 12 回:第 9 章 技術要素(1)

事前学習:テキスト「9-1」～「9-2」を読み予習する(2 時間)

事後学習:本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間)

第 13 回:第 9 章 技術要素(2)

事前学習:テキスト「9-3」を読み予習する(2 時間)

事後学習:本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間)

第 14 回:第 9 章 技術要素(3)

事前学習:テキスト「9-4」～「9-5」を読み予習する(2 時間)

事後学習:本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間)

第 15 回:第 10 章 表計算、CBT 試験対策

事前学習:テキスト「10-1」～「10-3」、「CBT 試験対策」を読み予習する(2 時間)

事後学習:本日採り上げた範囲について復習、章末問題 (2 時間)

IT パスポート試験疑似体験用ソフトウェアで過去問題を試行 (3 時間)

第 16 回:定期試験

成績評価方法

定期試験(80%) 演習課題(10%) 平常点(10%)

(平常点は、授業への参加状況・受講態度等)

成績評価基準

IT パスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 ■ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(インターネット関連企業勤務)

・実務経験と授業内容との関連性

(IT 関連企業でマーケティングや開発経験を有する教員が、社会におけるIT技術の役割を実例豊富に紹介し、企業で求められる実践的リテラシーとスキルを開発する。)

テキスト、参考図書

テキスト

『令和 2-3 年度版 IT パスポート試験 対策テキスト&過去問題集』 FOM 出版 2020 年

参考図書

『令和 02 年 イメージ&クレーバー方式でよくわかる 栢木先生の IT パスポート教室』 技術評論社 2019 年

『【令和 2 年度】 いちばんやさしい IT パスポート 絶対合格の教科書+出る順問題集』 SB クリエイティブ 2020 年

その他(受講上の注意)

テキスト必携必須

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

情報処理演習b (Information Processing Practicum b)			担当教員	竹村 順吾	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-2252	2	2・3 年後期	演習	選択	
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
□自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。
授 業 の 到 達 目 標
・一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 ・本授業では、情報処理技術者試験の一つである「IT パスポート試験(i パス)」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。
参考 IT パスポート試験シラバス (http://www.jitec.ipa.go.jp/1_13download/syllabus_ip_ver3_0.pdf)
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☒ 発表 (プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他 (具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
授業は、IT パスポート試験の過去問題演習に取り組むことを主体とし、前期授業の補足も併せて行う。 第1回:第1章 企業と法務(1) 事前学習:Lesson01～8を読み、予習する(2時間) 事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習(2時間) 第2回:第1章 企業と法務(2) 事前学習:Lesson09～16を読み、予習する(2時間) 事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習(2時間) 第3回:第2章 経営戦略(1) 事前学習:Lesson17～22を読み、予習する(2時間) 事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習(2時間) 第4回:第2章 経営戦略(2) 事前学習:Lesson23～29を読み、予習する(2時間) 事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習(2時間) 第5回:第3章 システム戦略 事前学習:Lesson30～37を読み、予習する(2時間) 事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習(2時間) 第6回:第4章 開発技術 事前学習:Lesson38～47を読み、予習する(2時間) 事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習(2時間) 第7回:第5章 プロジェクトマネジメント、第6章 サービスマネジメント 事前学習:Lesson48～57を読み、予習する(2時間) 事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習(2時間) 第8回:第7章 基礎理論(1) 事前学習:Lesson58～61を読み、予習する(2時間) 事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習(2時間) 第9回:第7章 基礎理論(2) 事前学習:Lesson62～65を読み、予習する(2時間) 事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習(2時間) 第10回:第8章 コンピュータシステム(1) 事前学習:Lesson66～74を読み、予習する(2時間) 事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習(2時間)

第 11 回:第 8 章 コンピュータシステム (2)

事前学習:Lesson75～83 を読み、予習する (2 時間)

事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習 (2 時間)

第 12 回:第 9 章 技術要素 (1)

事前学習:Lesson84～91 を読み、予習する (2 時間)

事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習 (2 時間)

第 13 回:第 9 章 技術要素 (2)

事前学習:Lesson89～93 を読み、予習する (2 時間)

事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習 (2 時間)

第 14 回:第 9 章 技術要素 (3)

事前学習:Lesson94～101 を読み、予習する (2 時間)

事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習 (2 時間)

第 15 回:第 9 章 技術要素 (4)

事前学習:Lesson102～112 を読み、予習する (2 時間)

事後学習:本日採り上げた範囲、問題について復習 (2 時間)

第 16 回:定期試験

成績評価方法

定期試験(70%) 演習課題(20%) 平常点(10%)

(平常点は、授業への参加状況・受講態度等)

成績評価基準

IT パスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 ■ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(インターネット関連企業勤務)

・実務経験と授業内容との関連性

(IT 関連企業でマーケティングや開発経験を有する教員が、社会におけるIT技術の役割を実例豊富に紹介し、企業で求められる実践的リテラシーとスキルを開発する。)

テキスト、参考図書

テキスト

『令和 02-03 年 IT パスポート 試験によく出る問題集』技術評論社 2020 年

参考図書

『令和 2-3 年度版 IT パスポート試験 対策テキスト&過去問題集』FOM 出版 2020 年

その他(受講上の注意)

テキスト必携必須

前期の「情報処理演習 a」を受講している者を前提としている。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

フィールドワーク演習(インターンシップ) (Fieldwork Practice (Internship))			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-2361	2	3 年前期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実証的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■ 自他の理解能力 ■ コミュニケーション能力 ■ 情報収集・探索能力 ■ 社会・職業理解能力 ■ 役割把握・認識能力 ■ 計画実行能力 ■ 選択能力 ■ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
本授業は、主として「福井県インターンシッププログラム」(3 年生対象)に沿って、民間企業や各種団体、自治体等における就業体験(原則として 5 日間)を夏期休業中に行う。インターンシップ参加者(福井県外での参加者含む)は、事前の本学教員および主催者によるガイダンスや面接等を受講し、事後の報告会等に参加することを義務づけ、就業意識の高揚をねらう。
授 業 の 到 達 目 標
民間企業や各種団体・自治体等で就業体験(実習)を行い、以後の学習・研究のための動機付けを得ること、また社会人・職業人となるための自己認識、自己啓発につなげること。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ■グループワーク ■発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
■準備・事前研修期間 4 月上旬:本学ガイダンスへの参加(学内実施) 4 月上旬:インターンシップ志望動機書の提出(学内実施) 4 月下旬:面接(学内実施) ※結果発表:5 月上旬 4 月下旬:合同ガイダンスへの参加(学外実施) 5 月中旬:エントリーシートの提出(学内実施) 6 月上旬:本学事前研修会への参加(学内実施) 6 月下旬:就業体験先企業・団体の通知(学内実施) 7 月中旬:合同事前研修会への参加(学外実施)
■就業体験期間 7 月上旬～:就業体験先企業・団体と事前調整 8 月上旬～9 月下旬:就業体験
■事後研修期間 10 月下旬:合同事後研修会への参加(学外実施)(グループワークおよび発表) 事後学習:授業で課された「インターンシップで学んだこと」について、レポートにまとめておくこと。 11 月下旬:レポートの提出(学内実施) ※テーマ:インターンシップで学んだこと ※授業外の基本的な学習(60 時間)方法として、就業体験先企業・団体の組織概要や事業内容について 調べたり、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって就業体験に参加してください(予習)。また、就業体験、研修の内容や気づいたことなどを整理・確認するなどし、次回プログラムに備えてください(復習)。
成 績 評 価 方 法
就業体験先企業・団体の評価(35%)、レポート(30%)、平常点(35%) 平常点は事前研修(ガイダンス・面接を含む)の参加状況、参加意欲(志望動機)等を総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
インターンシップ先の研修において、期待される行動・態度がとれているか。 就業体験をとおして、今後自己に必要な学習・研究について明確化することができているか。 民間企業や各種団体等での就業体験によって、自己の就業意識を向上することができたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
☐ 定期試験時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

- ・経歴
 (元情報通信会社管理職(人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等の業務を担当))
- ・実務経験と授業内容との関連性
 (情報通信会社で管理職(人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等の業務を担当)経験のある教員が、学生の就業体験にあたっての心構えや留意点についての解説や就業体験後の振り返り(反省・成果の確認)の場を提供するとともに、振り返りを踏まえた今後の課題について、学生生活を関連づけて考えることができるよう促す。)

テキスト、参考図書

使用しない。

その他(受講上の注意)

- 本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実習登録手続きを要しない。
- ・受講希望者には、「志望動機書」の提出および面接を行い、就業意欲を認めたうえで実施する。
 - ・授業計画は、協力団体などの都合により、前後したり変更する場合がある。
 - ・第1回キャリアガイダンスにおいてスケジュールなどについて説明するので、必ず出席すること。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

キャリア・デザイン I (Career Design I)			担当教員	植月 百枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-2162	2	1 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実証的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容	
変化の激しい時代、これが正しいというキャリアモデルはない。知人・友人などのネットワークや、自ら考え学び自分は将来どのような仕事をしたいのか、どうありたいのかを常に探求していくことが重要である。 この授業では、キャリア形成と仕事へのアプローチのために必要なことは何かを自ら考え、挨拶・電話対応・ビジネス文書作成などの実践と、グループワークを通してビジネス社会での基本マナーとルールを身につけていく。	
授 業 の 到 達 目 標	
・自分自身のキャリア形成のため必要な意識と知識を修得する。 ・社会人のマナーやルールを理解する。 ・他者に敬意をはらい、円滑なコミュニケーションを修得する。	
アクティブ・ラーニング	
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ■グループワーク ☐ 発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ■ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)	
授業計画及び授業外の学修方法	
第1回：学生時代に学ぶこと、考えること 事前学習：大学時代にやるべきことは沢山ある。自分のなすべきこと、やりたいことを考え、まとめておくこと。(2時間) 事後学習：自身の未来に思いをはせ、具体的に挑戦したいことをまとめ、ノートに記入することを課す。(2時間) 第2回：コミュニケーションとビジネスマナーの基本 事前学習：授業前にテキストの第1編1章を読み、社会が求める期待される社会人について考えておくこと。(2時間) 事後学習：良好なコミュニケーションのために気をつけることをまとめ、ノートに記入することを課す。(2時間) 第3回：ビジネスマナーはなぜ必要か(グループワーク) 事前学習：ビジネスマナーの意義について自分なりの考えをまとめて発表できるようにしておくこと。(2時間) 事後学習：授業やグループワークの学びからビジネスマナーがなぜ必要か熟考すること。復習課題を課す。(2時間) 第4回：指示の受け方と、報告・連絡・相談 事前学習：授業前にテキストの第1編4章を熟読し理解を深め、分からないことは質問をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：実技を通し学んだことをまとめ、ノートに記入することを課す。(2時間) 第5回：話し方ときき方のポイント(グループワーク) 事前学習：授業前にテキストの第1編5章を熟読し理解を深めること。(2時間) 事後学習：きき方のグループワークを通して学んだことをまとめ、ノートに記入することを課す。(2時間) 第6回：ビジネス文書、ビジネスメールの書き方 事前学習：授業前にテキストの第2編2章を熟読し理解を深めること。質問があればまとめておくこと。(2時間) 事後学習：身の回りの文書(書類、手紙、はがき)を点検し、書き方を確認すること。復習課題を課す。(2時間) 第7回：ビジネス文書の作成・名刺交換(グループワーク) 事前学習：テキスト第1編6章を熟読すること。授業では名刺を作成し、交換をするので準備をしておくこと。(2時間) 事後学習：分からないことは図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間) 第8回：電話対応の基本と重要性 事前学習：授業前にテキストの第2編3章を熟読し理解を深めること。それに関することをまとめておくこと。(2時間) 事後学習：プリントを熟読し、声に出して電話対応の仕方を練習すること。復習課題を課す。(2時間) 第9回：キャリア支援センターについて 事前学習：授業ではキャリア支援センターについて話を聞く。キャリア支援センター及びキャリア形成に関する質問をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業で課された大学の歴史、建学の精神について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第10回：情報収集と効果的な活用法 事前学習：授業前にテキストの第2編5章を熟読し、さまざまな情報源について調べ理解を深めること。(2時間) 事後学習：情報源の活用について復習課題を課す。(2時間)	

第 11 回：敬語の種類と必要性

事前学習：授業前にテキストの第 1 編 5 章を読み理解を深めること。敬語について図書館などで調べること。(2 時間)

事後学習：プリント資料などで復習すること。敬語の復習課題を課す。(2 時間)

第 12 回：ビジネスマナー実践①挨拶、言葉遣い、さまざまなハラスメントなど(グループワーク)

事前学習：DVD で学習後に実践で体得していく。テキストの該当項目を熟読し理解しておくこと。(2 時間)

事後学習：グループワークで学んだことを日常生活で実践すること。振り返りの課題を課す。(2 時間)

第 13 回：ビジネスマナー実践②身だしなみ、報告・連絡・相談、コンプライアンスなど(グループワーク)

事前学習：DVD で学習後に実践で体得していく。テキストの該当項目を熟読し理解しておくこと。(2 時間)

事後学習：グループワークで学んだことを日常生活で実践すること。振り返りの課題を課す。(2 時間)

第 14 回：ビジネスマナー実践③他社訪問、面接対応、電話応対、電子メールの注意点など(グループワーク)

事前学習：DVD で学習後に実践で体得していく。テキストの該当項目を熟読し理解しておくこと。(2 時間)

事後学習：グループワークで学んだことを日常生活で実践すること。振り返りの課題を課す。(2 時間)

第 15 回：ビジネスマナー実践④ビジネス文書、会社のルール、国際人としてのビジネスマナーなど(グループワーク)

事前学習：DVD で学習後に実践で体得していく。テキストの該当項目を熟読し理解しておくこと。(2 時間)

事後学習：グループワークで学んだことを日常生活で実践すること。振り返りの課題を課す。(2 時間)

第 16 回：定期試験

成績評価方法

定期試験(50%)、演習(25%)、平常点(25%)

*平常点は授業への出席状況、グループワークへの参加態度、実践への取り組みなどを総合して判断する。

成績評価基準

- ・自分自身のキャリア形成のため必要な意識と知識を修得しているか。
- ・社会人のマナーやルールを理解しているか。
- ・他者に敬意をはらい、円滑なコミュニケーションをとることができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

■ 定期試験時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴
(アナウンサー)

・実務経験と授業内容との関連性

(民間放送局のアナウンサー(社員)として勤務した経験を有する教員が、卒業後のキャリア形成を見据えて学生時代に探求、考察すべきことや実践方法等について講義する。)

テキスト、参考図書

『2020 年版ビジネス能力検定ジョブパス 3 級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター

その他(受講上の注意)

グループごとの発表が多いので、積極的に発言し協力してまとめること。

上記の授業計画は予定である。授業の進行状況によって変更することもある。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

キャリア・デザインⅡ (Career DesignⅡ)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-2261	2	2 年後期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実知的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■ 自他の理解能力 ■ コミュニケーション能力 ■ 情報収集・探索能力 ■ 社会・職業理解能力 ■ 役割把握・認識能力 □ 計画実行能力 □ 選択能力 □ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
社会の中での役割を主体的に果たしながら、「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できる機会の提供を通じて、今後の大学生活の目標を設定する。
授 業 の 到 達 目 標
・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができる。 ・「はたらく」と大学生活での「学び」を関連づけて考えることができる。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ■グループワーク ■発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
第1回:キャリア・デザインとは 事前学習:初回の授業ではキャリア・デザインの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:授業で課されたライフストーリーについて、レポートにまとめておくこと。(2時間)
第2回:ライフストーリー① 事前学習:次回の授業ではゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第3回:ライフストーリー② 事前学習:次回の授業ではゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第4回:ライフストーリー③ 事前学習:次回の授業ではゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第5回:スキルアップ 事前学習:次回の授業ではスキルと資格の必要性について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第6回:ライフストーリー④(グループワーク・発表) 事前学習:次回の授業では各自調査したライフストーリーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第7回:職業理解① 事前学習:次回の授業では金融業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) ※金融業界は予定です(変更する場合があります)。
第8回:職業理解② 事前学習:次回の授業ではマスコミ業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) ※マスコミ業界は予定です(変更する場合があります)。
第9回:ライフステージ・イベント 事前学習:次回の授業ではライフステージについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第10回:「はたらく」とは 事前学習:次回の授業では「はたらく」ことの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)

事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第11回:インターンシップ
事前学習:次の授業では「インターンシップ」参加の意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第12回:就職活動①
事前学習:次の授業では就職活動の心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第13回:就職活動②
事前学習:次の授業では就職活動の心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第14回:労働法
事前学習:次の授業では「労働法」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第15回:まとめ
事前学習:次の授業では「はたらく」とことと大学生活での「学び」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
成績評価方法
課題に対する活動内容・提出物(70%)、平常点(30%) ※平常点:授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの
成績評価基準
・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができるか。 ・「はたらく」とことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができるか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
5) その他(自由記述:リアクションペーパーに対するフィードバックについて) ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (元情報通信会社管理職(人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等の業務を担当))
・実務経験と授業内容との関連性 (情報通信会社で管理職(人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等の業務を担当)経験のある教員が、社会の中での役割を主体的に果たしながら「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できるような機会を提供する。)
テキスト、参考図書
必用に応じて、授業中に提示します。
その他(受講上の注意)
「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

心理的アセスメント (Psychological Assessment)			担当教員	森 俊之
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-F-2209	2	2 年後期	演習	選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎				
求める学習成果(教育目標)				
心理学の研究方法与基礎的な知識・技能・技術				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力				

授 業 の 内 容
心理的アセスメント(観察法、面接法、検査法)の基礎について、講義と演習を交えながら学ぶ。心理的アセスメントの目的や意義、倫理等について学んだ後、具体的な演習を交えながら、観察法、面接法、検査法について学ぶ。実習した内容については、実習結果をまとめるレポート提出が課せられ、レポートの書き方についても、学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
・心理的アセスメントの目的や意義、倫理等について説明できる。 ・心理的アセスメントの主要な方法について、それぞれの方法の意義や特徴、限界等について説明できるとともに、基礎的なアセスメント方法の一部を実施できる。 ・心理的アセスメントの結果の記録や報告ができる。 ・自分自身の性格や話し方の特徴などを多角的に分析し、説明できる。
アクティブ・ラーニング
□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート) ■グループワーク □発表(プレゼンテーション) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回:心理的アセスメントの目的、意義、倫理 事後学習:「日常におけるアセスメント」というレポートをまとめる(4 時間) 第 2 回:観察法の理解①(講義) 事後学習:授業で学んだ観察法のポイントをまとめる(4 時間) 第 3 回:観察法の理解②(実習) 事後学習:授業中の作業の続きを行う(4 時間) 第 4 回:観察法の理解③(実習) 事後学習:授業で体験した観察実習の結果をレポートにまとめる(4 時間) 第 5 回:面接法の理解①(講義) 事後学習:授業で学んだ面接法のポイントをまとめる(4 時間) 第 6 回:面接法の理解②(実習) 事後学習:授業中の作業の続きを行う(4 時間) 第 7 回:面接法の理解③(実習) 事後学習:授業で体験した面接実習の結果をレポートにまとめる(4 時間) 第 8 回:心理検査法(講義) 事後学習:心理検査の妥当性・信頼性についてレポートをまとめる(4 時間) 第 9 回:知能検査の理解①(講義) 事後学習:授業で学んだ検査を表にまとめる(4 時間) 第 10 回:知能検査の理解②(実習) 事後学習:授業で体験した知能検査の結果をレポートにまとめる(4 時間) 第 11 回:質問紙人格検査の理解①(講義) 事後学習:授業で学んだ検査を表にまとめる(4 時間) 第 12 回:質問紙人格検査の理解②(実習) 事後学習:授業で体験した心理検査の結果をレポートにまとめる(4 時間) 第 13 回:投射法その他の心理検査の理解①(講義) 事後学習:授業で学んだ検査を表にまとめる(4 時間) 第 14 回:投射法その他の心理検査の理解②(実習) 事後学習:授業で体験した心理検査の結果をレポートにまとめる(4 時間) 第 15 回:テストバッテリーと総合的理解(講義) 事後学習:授業で学んだテストバッテリーのポイントをまとめる(4 時間)

第 16 回: 期末試験

※各回(最終回を除く)とも授業の前半に、前回の授業後の事後学習の内容についての振り返り(数人の学生による発表を含む)を行う。(グループワーク)

成績評価方法

授業後に課す課題をレポート(60%)として提出してもらうとともに、学期末に筆記試験(40%)を行い、両者により評価する。実習を伴うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。

成績評価基準

- ・さまざまな心理検査の種類を理解し、それぞれの検査の効用と限界について説明できるか。
- ・課題として取り上げた心理検査について、実施手順や分析手順を理解し、一通り実施できるか。
- ・自分自身の性格について多角的に分析し、他者に説明できるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
☒ 定期試験時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(公認心理師、臨床心理士)

・実務経験と授業内容との関連性

(公認心理師の教員が、心理的アセスメントの基礎について、その目的や意義、倫理などを解説する。)

テキスト、参考図書

<テキスト>願興寺礼子・吉住隆弘編「心理検査の実施の初歩」(ナカニシヤ出版、2011 年発行)

そのほか、各検査毎に必要な資料を配付したり、参考図書を指示する。

その他(受講上の注意)

- ・実習を含むので、出席と熱心な受講態度を期待する。
- ・自分自身の性格等の自己開示が必要な場合がある。
- ・心理検査の学習者・実施者の倫理(授業時に説明)を守り、検査の知識を安易に使用しないこと。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

心理検査演習 (Training Course of Psychological Testing)			担当教員	吉水 ちひろ、坂井 祐円、青井 利哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2310	2	3 年前期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
この授業では、心理検査の背景理論や実施方法について学習した後、実際に検査者と被検者の双方を体験する。これを通して、心理検査を正しく理解するだけでなく、その効用と限界の認識、さらに倫理性をわきまえた態度を身につけていく。また、一定の決められた実施法や解釈の仕方などを習得する中で、新たな自分への気づきや他者理解へと繋げることを目的とする。
授 業 の 到 達 目 標
・心理検査の種類を理解し、各検査の効用と限界について説明できる。 ・心理検査の実施に際して、実施手順や分析手順を理解し施行できる。 ・心理検査を用いるときの倫理的配慮や注意事項について説明することができる。 ・自分自身の性格を多角的に分析し、他者に説明できる。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表 (プレゼンテーション) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他 (具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
この授業では、さまざまな心理検査について体験的学習を行うためにグループ別にて演習を行う。以下のように4週ごとに異なる検査について学ぶ。 第 1 回:オリエンテーション 事前学習:心理的アセスメントを振り返り、基礎的な知識の復習をしておく。(2時間) 事後学習:テキストを参照し、質問項目をまとめておく。(2時間) 第 2 回:アセスメントにおける心理検査法の役割・レポートの書き方についての説明 事前学習:授業のテーマについてテキストを見直し、自分なりの意見をまとめておく。(2時間) 事後学習:関連することを参考文献等で調べ、ポイントを整理しまとめておく。(2時間) 第 3 回:質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投影法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS- III)①実習 事前学習:テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習:授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第 4 回:質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投影法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS- III)②実習 事前学習:テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習:授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第 5 回:質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投影法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS- III)③実習 事前学習:テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習:授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第 6 回:質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投影法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS- III)④実習 事前学習:テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習:授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第 7 回:質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投影法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS- III)①実習 事前学習:テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習:授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第 8 回:質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投影法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS- III)②実習 事前学習:テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習:授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第 9 回:質問紙法検査(STAI、MAS、CMI)・投影法検査(風景構成法、SCT)・知能検査(WAIS- III)③実習 事前学習:テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習:授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間)

第 10 回：質問紙法検査 (STAI、MAS、CMI)・投影法検査 (風景構成法、SCT)・知能検査 (WAIS-Ⅲ) ④実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第 11 回：質問紙法検査 (STAI、MAS、CMI)・投影法検査 (風景構成法、SCT)・知能検査 (WAIS-Ⅲ) ①実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第 12 回：質問紙法検査 (STAI、MAS、CMI)・投影法検査 (風景構成法、SCT)・知能検査 (WAIS-Ⅲ) ②実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第 13 回：質問紙法検査 (STAI、MAS、CMI)・投影法検査 (風景構成法、SCT)・知能検査 (WAIS-Ⅲ) ③実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第 14 回：質問紙法検査 (STAI、MAS、CMI)・投影法検査 (風景構成法、SCT)・知能検査 (WAIS-Ⅲ) ④実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第 15 回：演習の振り返りとまとめ 事前学習：これまでの演習を復習しておく。(2時間) 事後学習：授業の到達目標に達しているかを確認する。(2時間) ※各検査の担当者は[]に示す通りである。質問紙法検査[青井]、投影法検査[吉水]、知能検査[坂井] 予習：テキストおよび参考文献を用いて各回で取り上げる心理検査について予習し、基本的な事柄について理解しておくこと。 復習：授業で体験した心理検査を通して、考えたことや感じたことをまとめておくこと。また、授業時間だけでは作業が終わらない場合は、残った作業を遂行して次の授業に臨むこと。

成績評価方法

授業への参加状況や受講態度(60%)、検査ごとに作成する課題レポート(30%)、演習全体を通した小レポート(10%)などから総合的に評価する。心理検査を用いた演習を行うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。

成績評価基準

- ・心理検査の種類を理解し、各検査の効用と限界について説明できるか。
- ・心理検査の実施に際して、実施手順や分析手順を理解し施行できるか。
- ・心理検査を用いるときの倫理的配慮や注意事項について説明することができるか。
- ・自分自身の性格を多角的に分析し、他者に説明できるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 4) レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
☐ 定期試験時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)
- 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大 e ラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

- ・経歴
(公認心理師、臨床心理士)
- ・実務経験と授業内容との関連性
(公認心理師の教員の指導の下、心理検査法の背景理論や実施方法、効用と限界の認識について理解するために演習を行う。)

テキスト、参考図書

<テキスト>願興寺礼子・吉住隆弘(編)「心理検査の実施の初歩」(ナカニシヤ出版,2011 年発行)
 そのほか、各検査毎に必要な資料を配布したり、参考図書を指示する。

その他(受講上の注意)

- ・実習を含むので、出席と熱心な受講態度を期待する。
- ・自分自身の性格等の自己開示が必要な場合がある。
- ・心理検査の学習者・実施者の倫理(授業時に説明)を守り、検査の知識を安易に使用しないこと。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

臨床心理学概論Ⅰ (Introduction to Clinical PsychologyⅠ)			担当教員	稲木 康一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-G-2221	2	2 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
臨床心理学の概説。 臨床心理学のなりたちと、臨床心理学の代表的な理論について学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
臨床心理学のなりたちと代表的な理論について理解し、その概要を説明することができる。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表 (プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他 (具体的に記述: eラーニング、リアクションペーパー)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回: オリエンテーション(リアクションペーパー) 事前学習: シラバスを熟読すること。(2 時間) 事後学習: テキストを購入して、「巻頭言」「はじめに」を読むこと。(2 時間) 第 2 回: 臨床心理学の歴史(日本)(eラーニング: 端末を持参すること。) 事前学習: テキスト第 1 章を読むこと。(2 時間) 事後学習: eラーニングを閲覧すること。(2 時間) 第 3 回: 臨床心理学の歴史(世界) 事前学習: テキスト第 2 章を読むこと。(2 時間) 事後学習: eラーニングを閲覧すること。(2 時間) 第 4 回: 臨床心理学の定義 事前学習: テキスト第 3 章を読むこと。(2 時間) 事後学習: What is Clinical Psychology ? (テキスト P.33) を翻訳すること。また、復習テストの準備をすること。(2 時間) 第 5 回: 臨床心理学の理論①(精神分析1)(復習テスト①) 事前学習: テキスト第 4 章を読むこと。(2 時間) 事後学習: eラーニングを閲覧すること。(2 時間) 第 6 回: 臨床心理学の理論②(精神分析2)(復習テスト①のフィードバック) 事前学習: テキスト第 4 章を読むこと。(2 時間) 事後学習: eラーニングを閲覧すること。(2 時間) 第 7 回: 臨床心理学の理論③(分析心理学1) 事前学習: テキスト第 5 章を読むこと。(2 時間) 事後学習: eラーニングを閲覧すること。(2 時間) 第 8 回: 臨床心理学の理論④(分析心理学2) 事前学習: テキスト第 5 章を読むこと。(2 時間) 事後学習: eラーニングを閲覧すること。(2 時間) 第 9 回: 臨床心理学の理論⑤(行動論・認知論1) 事前学習: テキスト第 6 章を読むこと。(2 時間) 事後学習: eラーニングを閲覧すること。(2 時間) 第 10 回: 臨床心理学の理論⑥(行動論・認知論2) 事前学習: テキスト第 6 章を読むこと。また、復習テストの準備をすること。(2 時間) 事後学習: eラーニングを閲覧すること。(2 時間) 第 11 回: 臨床心理学の理論⑦(人間性心理学1)(復習テスト②) 事前学習: テキスト第 7 章を読むこと。(2 時間) 事後学習: eラーニングを閲覧すること。(2 時間)

第 12 回:臨床心理学の理論⑧(人間性心理学2)(復習テスト②のフィードバック)

事前学習:テキスト第 7 章を読むこと。(2 時間)

事後学習:eラーニングを閲覧すること。(2 時間)

第 13 回:臨床心理学の理論⑨(コミュニティ・アプローチ)

事前学習:テキスト第 10 章を読むこと。(2 時間)

事後学習:eラーニングを閲覧すること。(2 時間)

第 14 回:臨床心理学の理論⑩(統合的アプローチ)

事前学習:テキスト第 13 章を読むこと。(2 時間)

事後学習:eラーニングを閲覧すること。(2 時間)

第 15 回:「臨床心理学」の各領域に関するまとめと定期試験対策

事前学習:eラーニングを活用して、指定持込用紙をまとめること。(2 時間)

事後学習:eラーニングを活用して、指定持込用紙をまとめること。(2 時間)

第 16 回:定期試験

成績評価方法

定期試験(60%)、復習テスト(20%)、平常点(20%)

定期試験は指定持込用紙の持込を可とします。

復習テスト(授業時の課題に相当します)の内容は授業中に指示します。

平常点は受講態度(eラーニングの閲覧状況を含む)やリアクション・ペーパーの提出状況などで総合的に判断します。

成績評価基準

臨床心理学のなりたちと代表的な理論に関して、重要な用語や概念を理解し説明することができる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(公認心理師、臨床心理士)

・実務経験と授業内容との関連性

(公認心理師の教員が、心理臨床現場において基礎となる臨床心理学のなりたちと代表的な理論について講義する。)

テキスト、参考図書

「臨床心理学概論」 野島一彦・岡村達也(編) 遠見書房 2,400 円＋税 ISBN:978-4-86616-053-5

その他(受講上の注意)

eラーニングを活用します。

eラーニングに投稿があったとき、携帯電話に情報が転送されるように設定してください。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

臨床心理学概論Ⅱ (Introduction to Clinical Psychology Ⅱ)			担当教員	稲木 康一郎
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-G-2222	2	2 年後期	講義	選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門				
求める学習成果(教育目標)				
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
☒ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力				

授 業 の 内 容
各領域における心理療法(心理学的支援法)の心理学的臨床実践事例を学習する。 また、臨床実践における留意点を理解する。
授 業 の 到 達 目 標
代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応を概説できる。 地域支援の意義、良好な人間関係の築き方、プライバシーへの配慮、要支援者の関係者に対する支援、心の健康教育について概説できる。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(具体的に記述:eラーニング、リアクションペーパー)
授業計画及び授業外の学修方法
第1回:オリエンテーション・復習テスト①(リアクションペーパー) 事前学習:「臨床心理学Ⅰ(「臨床心理学概論Ⅰ」)」の内容を復習すること。(2時間) 事後学習:同上。(2時間) 第2回:精神分析療法(代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応および限界) (eラーニング・復習テスト①のフィードバック) 事前学習:eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習:講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第3回:行動療法(代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応および限界) 事前学習:eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習:講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第4回:来談者中心療法(代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応および限界) 事前学習:eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習:講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第5回:受理面接: ラポール・主訴・経過の聴き方(良好な人間関係を築くコミュニケーション) 援助構造・面接記録・守秘義務(プライバシーへの配慮) 事前学習:eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習:復習テスト②の準備をすること(2時間) 第6回:医療①:抑うつに対する認知行動療法・復習テスト② 事前学習:復習テスト②の準備をすること。(2時間) 事後学習:講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第7回:医療②:抑うつに対する認知行動療法(プライバシーへの配慮と多職種連携) (復習テスト②のフィードバック) 事前学習:eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習:講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第8回:産業①:バーンアウトに対する評価と介入 事前学習:eラーニングを閲覧すること。(2時間) 事後学習:講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2時間) 第9回:産業②:バーンアウトに対する評価と介入(論理情動行動療法にもとづく心の健康教育) 事前学習:日常生活において、バーンアウトの事例を探すこと。(2時間) 事後学習:日常生活において、不合理な信念の事例を探すこと。(2時間) 第10回:教育①:スクールカウンセリングの実際(良好な人間関係を築くコミュニケーション)・復習テスト③ 事前学習:復習テスト③の準備をすること。(2時間)

事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2 時間) 第 11 回：教育②：スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー(要支援者の関係者への支援) 事前学習：eラーニングを閲覧すること。(2 時間) 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2 時間) 第 12 回：教育③：教室で使える心理アセスメント(心理アセスメント適用と倫理) 事前学習：eラーニングを閲覧すること。(2 時間) 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。(2 時間) 第 13 回：福祉①：ぜんそく予防の応用行動分析(地域支援の意義) 事前学習：eラーニングを閲覧すること。(2 時間) 事後学習：定期試験の準備を始めること。(2 時間) 第 14 回：福祉②：ぜんそく予防の応用行動分析(心の健康教育) 事前学習：定期試験の準備をすること。(2 時間) 事後学習：定期試験の準備をすること。(2 時間) 第 15 回：「臨床心理学」の各領域の心理学的臨床実践に関するまとめと定期試験対策 事前学習：定期試験の準備をすること。(2 時間) 事後学習：定期試験の準備をすること。(2 時間) 第 16 回：定期試験
成績評価方法
定期試験(60%)、復習テスト(30%)、平常点(10%) 定期試験は「指定持込用紙」の持込を可とします。 第 1 回目の冒頭に、「臨床心理学 I (臨床心理学概論 I)」の内容について復習テストを行います。 復習テスト(授業時の課題に相当します)の内容は授業中に指示します。 平常点は受講態度(eラーニングの閲覧状況を含む)、リアクションペーパーの提出状況などで総合的に評価します。
成績評価基準
講義で取り上げた心理療法について説明できる。 地域支援の意義、良好な人間関係の築き方、要支援者の関係者に対する支援、心の健康教育について理解できる。 また、プライバシーへの配慮と関係者との情報共有のかねあいについて意見を持つ。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (公認心理師、臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、心理臨床現場において基礎となる臨床心理学のなりたちと代表的な理論について講義する。)
テキスト、参考図書
スライド資料や参考資料をeラーニングに掲載します。
その他(受講上の注意)
eラーニングを活用します。 eラーニングに投稿があったとき、携帯電話に情報が転送されるように設定してください。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

感情・人格心理学 (Psychology of Emotion and Personality)			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-G-2125	2	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
感情および性格に関する諸理論や研究を概観し、感情や性格を理解するための枠組みについて学ぶ。その上で、自己や他者の感情や性格をどのように理解し、対人関係の問題にどのように対処したらよいかを考える。
授 業 の 到 達 目 標
・感情心理学や性格心理学に関する基本的用語を説明できる。 ・感情や性格に関する心理学研究について説明できる。 ・自分の感情や性格について心理学的に考察し評価できる。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ■グループワーク ☐ 発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回:感情とは 事後学習:授業で指定されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べるとともに、授業で理解したことも含め自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(4 時間) 第 2 回:感情の生理過程 事前学習:前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習:事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2 時間) 第 3 回:感情の起源と発達 事前学習:前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習:事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2 時間) 第 4 回:感情が認知や行動にもたらす影響 事前学習:前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習:事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2 時間) 第 5 回:感情の障害 事前学習:前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習:事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2 時間) 第 6 回:性格とは 事前学習:前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習:事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2 時間) 第 7 回:性格の類型論 事前学習:前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習:事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2 時間) 第 8 回:性格の特性論 事前学習:前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習:事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2 時間) 第 9 回:脳と性格 事前学習:前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間)

事後学習: 事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。 (2 時間)
第 10 回: 性格の遺伝 事前学習: 前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習: 事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。 (2 時間)
第 11 回: ライフサイクルと性格 事前学習: 前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習: 事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。 (2 時間)
第 12 回: 家族関係・対人関係・文化と性格 事前学習: 前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習: 事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。 (2 時間)
第 13 回: 健康と性格 事前学習: 前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習: 事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。 (2 時間)
第 14 回: 性格の病気: 人格障害 事前学習: 前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習: 事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。 (2 時間)
第 15 回: 性格の測定 事前学習: 前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2 時間) 事後学習: 事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。 (2 時間)
第 16 回: 期末試験 ※各回(初回を除く)とも、授業の前半に前回の事後学習の成果をグループで紹介しあう時間を設ける。(グループワーク)
成績評価方法
学期末に実施する筆記試験(80%)と授業中に指示する課題・授業時の態度等(20%)をもとに評価する。
成績評価基準
・感情心理学や性格心理学に関する基本的用語を説明できるか。 ・感情や性格に関する心理学研究について説明できるか。 ・自分の感情や性格について心理学的に評価できるか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ■ 定期試験時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (公認心理師, 臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、感情および性格に関する諸理論や研究について講義し、自己や他者の理解と対人関係の問題への対処に関して解説する。)
テキスト、参考図書
教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

心理面接演習 (Training Course of Clinical Interviewing)			担当教員	稲木 康一郎、坂井 祐円	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-23121	2	3 年前期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法及基礎的な知識・技能・技術					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
心理学分野で用いられる面接法(個人アプローチ・グループアプローチ)について学ぶ。 具体的には、心理面接法に関する基礎知識についての講義を行い、演習によって学生が体験的に学習する。
授 業 の 到 達 目 標
①心理面接法(個人アプローチ・グループアプローチ)の基本的な理論や技法を理解する。 ②心理面接法を行う際に必要な倫理的態度を理解し、身につける。 ③積極的な演習への参加を通して、人の意見を聞き自分の意見を言える能力を身につける。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート) ☒ グループワーク ☐ 発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
2 つのグループ(A・B)が交替で 2 つの演習(個人アプローチ・グループアプローチ)を行う。 全体の授業計画は以下のとおり。 第 1 回 (全体授業)オリエンテーション・グループ分け【稲木・坂井】 第 2 回～第 7 回 (グループ別)A:個人アプローチ【坂井】、 B:グループアプローチ【稲木】 第 8 回 (全体授業)中間まとめと課題【坂井・稲木】 第 9 回～第 14 回(グループ別)A:グループアプローチ【稲木】、B:個人アプローチ【坂井】 第 15 回 (全体授業)演習全体のまとめと課題【稲木・坂井】 なお、演習の進行状況など、場合によっては、スケジュールが変更されることもあります。 以下に、A グループの授業計画を示す。 第 1 回 全体授業 オリエンテーション・グループ分け 事前学習:シラバスを熟読すること。(2 時間) 事後学習:講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 2 回 講義 傾聴技法とロールプレイについて 事前学習:自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2 時間) 事後学習:講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 3 回 演習 傾聴①(実技・ロールプレイ) 事前学習:自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2 時間) 事後学習:演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2 時間) 第 4 回 演習 傾聴②(実技・ロールプレイ) 事前学習:自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2 時間) 事後学習:演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2 時間) 第 5 回 演習 受容(実技・ロールプレイ) 事前学習:自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2 時間) 事後学習:演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2 時間) 第 6 回 演習 共感(実技・ロールプレイ)

事前学習:自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習:演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2時間) 第7回 演習 その他の技法(実技・ロールプレイ) 事前学習:自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習:課題の準備をすること。(2時間) 第8回 全体授業 中間まとめと課題 事前学習:課題の準備をすること。(2時間) 事後学習:課題の復習をすること。(2時間) 第9回 講義 グループアプローチと多様なエクササイズについて 事前学習:新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習:講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第10回 演習 アイスブレイキング(グループワーク) 事前学習:新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習:演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2時間) 第11回 演習 KJ法(グループワーク) 事前学習:新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習:演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2時間) 第12回 演習 価値のランキング(討議・ディスカッション) 事前学習:新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習:演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2時間) 第13回 演習 地球からの脱出(討議・ディスカッション) 事前学習:新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習:演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2時間) 第14回 演習 ワールド・カフェ(討議・ディスカッション) 事前学習:新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習:課題の準備をすること。(2時間) 第15回 全体授業 演習全体のまとめと課題 事前学習:課題の準備をすること。(2時間) 事後学習:課題の復習をすること。(2時間)	
成績評価方法	
授業への積極的な参加(50%)、および、課題(50%)で評価する。 授業への積極的な参加は、出席・態度・発言・ワークシートの内容などを総合的に評価する。 また、演習形式の授業であるため、授業への欠席や遅刻などは厳重に減点を行う。	
成績評価基準	
①心理面接法の基礎的かつ実践的な知識が身についているか。 ②心理面接法を行う際に必要な倫理的態度を理解し、身につけているか。 ③演習に積極的に参加し、人の意見を聞き自分の意見を言える能力を身につけているか。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述:)	
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	
・経歴 (公認心理師、臨床心理士)	

・実務経験と授業内容との関連性

(公認心理師の教員が、心理面接法の基本的な理論や技法、必要な倫理的態度について解説する。)

テキスト、参考図書

テキストはオリエンテーション時に示す。

その他（受講上の注意）

2つのグループに分かれ、交替して、個人アプローチとグループアプローチの2つの演習を行う。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

健康・医療心理学 (Health and Medical Psychology)			担当教員	渡辺 克徳
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-G-2223	2	2 年前期	講義	選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門				
求める学習成果(教育目標)				
健康・医療心理学の基礎的かつ一般的な知識を習得する。				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力				

授 業 の 内 容
公認心理師をはじめ心理職が保健医療領域で行う業務について理解し必要な知識を習得する。
授 業 の 到 達 目 標
健康・医療心理学の基本を説明することができる。 保健医療領域における心理職の専門性とその業務について説明することができる。 チーム医療の一員として心理職に期待されている事柄について説明することができる。 公認心理師が身につけておくべき事柄について説明することができる。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート) ☐ グループワーク ☐ 発表 (プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他 (具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回:健康心理学 事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 2 回:健康心理学におけるアセスメントと支援 事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 3 回:ストレスマネジメント 事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 4 回:各種の心理支援法 事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 5 回:医療心理学 事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 6 回:医療心理学におけるアセスメントと支援 事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 7 回:精神科, 児童精神科 事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 8 回:院内型独立型心理室 事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2 時間) 事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)

第9回:心療内科

事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)

事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第10回:小児科

事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)

事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第11回:緩和医療

事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)

事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第12回:産業保健

事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)

事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第13回:地域保健活動の実践

事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)

事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第14回:災害心理学

事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)

事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第15回:多職種協働と医療連携

事前学習:授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)

事後学習:テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第16回:定期試験

成績評価方法

定期試験(70%)平常点(30%)

(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

公認心理師が身につけておくべき知識としてあげられるキーワードについて説明することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(公認心理師, 臨床心理士)

・実務経験と授業内容との関連性

(公認心理師の教員が、心理職が保健医療領域で行う業務と専門性について講義する。)

テキスト、参考図書

宮脇稔・大野 太郎・藤本 豊・松野 俊夫『健康・医療心理学』医歯薬出版株式会社, 2018

ISBN-13: 978-4263265772

その他(受講上の注意)

講義は公認心理師養成カリキュラムに対応しています。日本心理学会が公開している大学カリキュラム・標準シラバス等も参考に学習してください。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

ビジネスコミュニケーション研究 (Business Communication)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-ABC-2319	2	3 年後期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。 異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる技能と言語スキルを身につけ、国際社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。 コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
情報通信媒体を介したバーチャルコミュニケーションが著しく拡大している今日において、ますます対面のコミュニケーション能力の重要性が問われる時代となっている。授業では、実社会において自身の個性や資質をより活かせるようにするための実践的なコミュニケーション能力の向上を狙いとする。
授 業 の 到 達 目 標
・コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができる。 ・他者とのコミュニケーションが円滑に行える。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート) ☒ グループワーク ☒ 発表 (プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他 (具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
授業では、組織や職場における基本的なコミュニケーションパターンを学ぶとともに、コミュニケーション力を高めるためのアプローチ方法について考えていく。 第 1 回:組織とは 事前学習:初回の授業では「組織」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 2 回:ビジネスコミュニケーションの特徴 事前学習:次回の授業ではビジネスコミュニケーションの特徴について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておく(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 3 回:管理部門と現場のコミュニケーション① 事前学習:次回の授業では「管理部門」と「現場」のコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 4 回:管理部門と現場のコミュニケーション② 事前学習:次回の授業では前回に続き「管理部門」と「現場」のコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 5 回:現場力を高めるコミュニケーション 事前学習:次回の授業では「現場力」を高めるコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 6 回:上司と部下のコミュニケーション(グループワーク・発表) 事前学習:次回の授業では上司と部下のコミュニケーションの留意点について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 7 回:会議のコミュニケーション 事前学習:次回の授業では会議の進め方における留意点について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習:わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 8 回:交渉のコミュニケーション① 事前学習:次回の授業では「対立」の背景・原因について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間)

事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)
第 9 回：交渉のコミュニケーション②
事前学習：次回の授業では「説得」の要件について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間)
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)
第 10 回：テキストのコミュニケーション(グループワーク・発表)
事前学習：次回の授業では「効果的な議事録・メール」について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間)
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)
第 11 回：自分とのコミュニケーション
事前学習：次回の授業では自己分析について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間)
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)
第 12 回：ES
事前学習：次回の授業では「ES」作成にあたっての留意点について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間)
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)
第 13 回：面接
事前学習：次回の授業では「面接」の留意点について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間)
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)
第 14 回：グループディスカッション
事前学習：次回の授業では「グループディスカッション」の留意点について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間)
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)
第 15 回：確認問題
事前学習：次回の授業では確認問題を実施するので、これまでの授業内容を確認しておくこと。(2 時間)
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間)
成績評価方法
課題に対する活動内容・提出物(70%)、平常点(30%) ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの
成績評価基準
・コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができるか。 ・他者とのコミュニケーションが円滑に行えるか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
5) その他(自由記述：リアクションペーパーに対するフィードバックについて) ■ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
情報通信会社で管理職(人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等の業務を担当)経験のある教員が、組織内および組織対組織で展開されるコミュニケーションについて解説する。
テキスト、参考図書
必用に応じて、授業中に提示します。
その他(受講上の注意)
「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

マルチメディア演習 (Practice in Multimedia)			担当教員	吉村 正照	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-AOO-2359	2	3 年前期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・マネジメントコース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
□自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
ウェブメディアにおけるコミュニケーション方法について、知識・技術の基礎を身に付ける。ウェブメディアの理解と共に、ウェブサイト制作の技法 (HTML/CSS によるページ制作、スマートフォン最適化) を習得していく。
授 業 の 到 達 目 標
現在におけるウェブメディアの役割を理解する。ウェブサイトの構築手法および技法を習得する。ウェブを介してコミュニケーションを生み出す能力を身に付ける。
アクティブ・ラーニング
☒ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート) ☒ グループワーク ☒ 発表 (プレゼンテーション) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他 (具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回 ウェブ概論、制作ツールの紹介、データの管理方法、著作権について(実習) 事前学習 (2 時間) 普段の生活でよく利用するウェブサイトを 10 個ピックアップする 事後学習 (2 時間) エディタの基本操作を覚える 第 2 回 HTML の基礎(実習、グループワーク) 事前学習 (2 時間) 前回の授業で配布された資料を読む 事後学習 (2 時間) エディタの操作を復習する、HTML の基礎を覚える 第 3 回 画像をウェブに最適化する(実習) 事前学習 (2 時間) 前回の授業で配布された資料を読む 事後学習 (2 時間) 画像編集ソフトの操作を復習する、用途に応じた画像の形式を覚える 第 4 回 CSS の基礎① レイアウト(実習) 事前学習 (2 時間) 前回の授業で配布された資料を読む 事後学習 (2 時間) エディタの操作を復習する、CSS によるレイアウトを理解する 第 5 回 CSS の基礎② レスポンシブデザインによるスマートフォン最適化(実習) 事前学習 (2 時間) 前回の授業で配布された資料を読む 事後学習 (2 時間) エディタの操作を復習する、レスポンシブを理解する 第 6 回 CSS の基礎③ 余白の調整(実習) 事前学習 (2 時間) 前回の授業で配布された資料を読む 事後学習 (2 時間) エディタの操作を復習する、余白の調整方法を覚える 第 7 回 CSS の基礎④ 文字の調整(実習) 事前学習 (2 時間) 前回の授業で配布された資料を読む 事後学習 (2 時間) エディタの操作を復習する、文字の調整方法を覚える 第 8 回 JavaScript の基礎(実習) 事前学習 (2 時間) 前回の授業で配布された資料を読む 事後学習 (2 時間) エディタの操作を復習する、JavaScript で機能を追加できるようになる 第 9 回 ウェブ制作の実践① シングルページ(課題解決型学習、グループワーク) 事前学習 (2 時間) 指定されたコンテンツを準備する 事後学習 (2 時間) ゼロから同じページを再作成する(反復練習) 第 10 回 ウェブ制作の実践② 一覧ページと詳細ページ(課題解決型学習、グループワーク) 事前学習 (2 時間) 指定されたコンテンツを準備する 事後学習 (2 時間) ゼロから同じページを再作成する(反復練習) 第 11 回 期末課題制作① オリエンテーション、制作フローの確認、ラフスケッチ、コンテンツの準備(課題解決型学習、フィールドワーク) 事前学習 (2 時間) これまでの配布資料を読み直しウェブ制作の技法について理解を深める

事後学習(2時間)コンテンツ制作のための取材(写真撮影を含む)を行う 第12回 期末課題制作② 制作(課題解決型学習、実習) 事前学習(2時間)コンテンツデータを整理してMacに読み込んでおく 事後学習(2時間)デザインの品質を高める 第13回 期末課題制作③ 制作、中間チェック(課題解決型学習、実習) 事前学習(2時間)数人で途中経過をプレビューし意見交換する 事後学習(2時間)担当教員からのフィードバックをもとにデザインの品質を高める 第14回 期末課題制作④ ブラッシュアップ、作品完成・提出(課題解決型学習、実習) 事前学習(2時間)更に良い作品にするために何度もプレビューする 事後学習(2時間)作品データを完成、データはEラーニングより提出する 第15回 期末課題制作⑤ プレゼンテーション(課題解決型学習、発表) 事前学習(2時間)プレゼンテーションを準備する 事後学習(2時間)他の学生の作品を鑑賞し批評する その他、1～15回目を通して授業外で学習してほしいこと ・「使いやすさ」「デザインパターン」を意識して、日常利用しているウェブサイトやアプリを別の視点で見る。 ・センスを鍛えるために自主制作をする。※制作アプリは無料でダウンロードできます。 ・疑問や知りたいことがあればオフィスアワー等を利用して積極的に担当教員に質問する。
成績評価方法
期末課題作品(40%) 授業毎の作品(30%) 授業毎の小テスト・レポート(30%)
成績評価基準
・ウェブの基本が理解できているか。 ・ツールを適切に使用できているか。 ・ウェブの基本を理解した上で、課題作品の制作ができているか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 ■ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (WEB デザイナー) ・実務経験と授業内容との関連性 (WEB デザイナーとしての業務経験を有する教員が、WEB サイト制作の技法について演習を行う。)
テキスト、参考図書
テキスト:使用しない 参考図書:授業内で紹介する
その他(受講上の注意)
授業を欠席した場合は、eラーニングにて授業内容を確認し次の授業までに課題を提出すること。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

デジタル・デザイン (Digital Design)			担当教員	吉村 正照	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-S-2111	2	1 年前期	演習		必修
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学基礎 B 群					
求める学習成果(教育目標)					
言語スキルやその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
□自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容	
視覚的なコミュニケーションのための表現方法について、知識・技術の基礎を身に付ける。グラフィックデザインの基本ルールの理解と平行して、コンピュータ (Mac) のアプリケーション (Photoshop、Illustrator) を用いたグラフィックデザインの技法を習得していく。	
授 業 の 到 達 目 標	
社会においてデザインが必要とされている理由を理解する。デザインの基本ルール(色、文字、レイアウト)について理解する。コンピュータを用いたグラフィックデザインの技法を習得する。デザインを駆使してコミュニケーションを生み出す能力を身に付ける。	
アクティブ・ラーニング	
■課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート) ■グループワーク ■発表(プレゼンテーション) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述:)	
授業計画及び授業外の学修方法	
第 1 回 Mac およびソフトウェアの基本操作、データの管理方法、著作権について(実習) 事前学習(2 時間)教科書の目次を読み、教科書中の図案を閲覧する 事後学習(2 時間)Mac の基本操作を覚える { https://support.apple.com/ja-jp/HT204216 } 第 2 回 デザインとは(実習) 事前学習(2 時間)教科書 6～16 ページを読む 事後学習(2 時間)教科書 6～16 ページを再読し理解を深める 第 3 回 文字と書体の基本(実習) 事前学習(2 時間)教科書 18～28 ページを読む 事後学習(2 時間)Illustrator の操作を復習する、書体の種類を覚える 第 4 回 文字組みの基本(実習) 事前学習(2 時間)教科書 30～42 ページを読む 事後学習(2 時間)Illustrator の操作を復習する、文字組みの基本を覚える 第 5 回 色の使い方(実習) 事前学習(2 時間)教科書 44～56 ページを読む 事後学習(2 時間)Illustrator の操作を復習する、色の特性、組み合わせパターンを覚える 第 6 回 画像の扱い方(実習) 事前学習(2 時間)教科書 58～68 ページを読む 事後学習(2 時間)Photoshop の操作を復習する、画像形式、解像度について理解する 第 7 回 画像を補正する(実習) 事前学習(2 時間)教科書 70～78 ページを読む 事後学習(2 時間)Photoshop の操作を復習する、画像補正について理解する 第 8 回 イラスト、ダイアグラム、インフォグラフィック(実習) 事前学習(2 時間)教科書 80～92 ページを読む 事後学習(2 時間)Illustrator の操作を復習する、身近なインフォグラフィックを調べる 第 9 回 制作実践①ポスターをつくる(課題解決型学習、グループワーク) 事前学習(2 時間)ポスターのデザイン事例を調べる 事後学習(2 時間)Illustrator の操作を復習する、ポスターデザインのコツを復習する 第 10 回 制作実践②チラシをつくる(課題解決型学習、グループワーク) 事前学習(2 時間)チラシのデザイン事例を調べる 事後学習(2 時間)Illustrator の操作を復習する、チラシデザインのコツを復習する 第 11 回 期末課題制作① オリエンテーション、制作フローの確認、ラフスケッチ、コンテンツの準備(課題解決型学習、フィールドワーク)	

事前学習(2時間)教科書を読み直してデザインの基本について理解を深める 事後学習(2時間)コンテンツ制作のための取材(写真撮影を含む)を行う 第12回 期末課題制作② デザインデータ制作(課題解決型学習、実習) 事前学習(2時間)コンテンツをデータ化しておく 事後学習(2時間)デザインの品質を高める 第13回 期末課題制作③ デザインデータ制作、中間チェック(課題解決型学習、実習) 事前学習(2時間)教科書を読み直してデザインの基本について理解を深める(反復が重要) 事後学習(2時間)担当教員からのフィードバックをもとにデザインの品質を高める 第14回 期末課題制作④ ブラッシュアップ、作品完成・提出、印刷(課題解決型学習、実習) 事前学習(2時間)教科書を読み直してデザインの基本について理解を深める(反復が重要) 事後学習(2時間)作品データを印刷、データはEラーニングより提出する 第15回 期末課題制作⑤ プレゼンテーション(課題解決型学習、発表) 事前学習(2時間)プレゼンテーションを準備する 事後学習(2時間)他の学生の作品を鑑賞し批評する その他、1～15回目を通して授業外で学習してほしいこと ・「デザイン」を意識して生活する。日常を観察し「デザイン」を発見する。 ・センスを鍛えるために自主制作をする。 ・疑問や知りたいことがあればオフィスアワー等を利用して積極的に担当教員に質問する。
成績評価方法
期末課題作品(40%) 授業毎の作品(30%) 授業毎の小テスト・レポート(30%)
成績評価基準
・デザインの基本ルールが理解できているか。 ・ツールを適切に使用できているか。 ・デザインの基本ルールを理解した上で、課題作品の制作ができているか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 ■ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (WEB デザイナー) ・実務経験と授業内容との関連性 (WEB デザイナーとしての業務経験を有する教員が、グラフィックデザインの技法について演習を行う。)
テキスト、参考図書
テキスト:細山田デザイン事務所「誰も教えてくれないデザインの基本」エクスナレッジ, 2018 年 参考図書:授業内で紹介する
その他(受講上の注意)
授業を欠席した場合は、eラーニングにて授業内容を確認し次の授業までに課題を提出すること。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

メディア・デザイン (Media Design)			担当教員	吉村 正照	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-AOO-2258	2	2 年後期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・マネジメントコース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
□自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容	
映像表現を用いたコミュニケーション方法について、知識・技術の基礎を身に付ける。メディア(テレビ、ウェブ等)や目的(PV、CM等)に応じた映像表現の基本ルールを理解と平行して、コンピュータ(Mac)／スマートフォンのアプリケーションを用いた映像表現の技法を習得していく。	
授 業 の 到 達 目 標	
現在において動画コンテンツが有効とされている理由を理解する。映像表現の基本ルール・手法について理解する。コンピュータを用いた映像表現の技法を習得する。映像表現を駆使してコミュニケーションを生み出す能力を身に付ける。	
アクティブ・ラーニング	
☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ☒ グループワーク ☒ 発表(プレゼンテーション) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述:)	
授業計画及び授業外の学修方法	
第 1 回 制作ツールの紹介、データの管理方法、映像制作の流れ、著作権について(実習) 事前学習(2 時間)教科書の目次を読み、教科書中の図案を見る 事後学習(2 時間)動画編集ソフトの基本操作を覚える 第 2 回 撮影技法① 安全や周囲への配慮、カメラの構え方、カメラワーク(実習、グループワーク) 事前学習(2 時間)前回の授業で配布された資料を読む 事後学習(2 時間)撮影技法の基本に基づいて撮影を更に試す 第 3 回 撮影技法② 三脚固定、タイムラプス、スロー(実習、グループワーク) 事前学習(2 時間)前回の授業で配布された資料を読む 事後学習(2 時間)タイムラプスやスローの機能を更に試す 第 4 回 編集技法① カット編集、トランジション(実習) 事前学習(2 時間)教科書 10～24 ページを読む 事後学習(2 時間)動画編集ソフトの操作を復習する、カット編集の基本を覚える 第 5 回 編集技法② テロップやサウンドの挿入(実習) 事前学習(2 時間)教科書 25～51 ページを読む 事後学習(2 時間)動画編集ソフトの操作を復習する、テロップの作成方法を覚える 第 6 回 編集技法③ ワイプ、インサート編集、色補正(実習) 事前学習(2 時間)教科書 54～76 ページを読む 事後学習(2 時間)動画編集ソフトの操作を復習する、色補正の方法を覚える 第 7 回 編集技法④ 時間操作(実習) 事前学習(2 時間)教科書 126～143 ページを読む 事後学習(2 時間)動画編集ソフトの操作を復習する、タイプリマップの使い方を覚える 第 8 回 制作実践①SNS 向け動画(課題解決型学習、グループワーク) 事前学習(2 時間)素材となる動画を撮影する 事後学習(2 時間)動画編集ソフトの操作を復習する、SNS 用動画の様式を覚える 第 9 回 制作実践②インタビュー動画撮影(課題解決型学習、グループワーク) 事前学習(2 時間)コンテンツ(インタビュー内容)を準備する 事後学習(2 時間)ロケ撮影をする 第 10 回 制作実践②インタビュー動画編集(課題解決型学習、グループワーク) 事前学習(2 時間)絵コンテを作成する 事後学習(2 時間)協同で編集し完成度を高める 第 11 回 期末課題制作① オリエンテーション、絵コンテの作成(課題解決型学習、フィールドワーク) 事前学習(2 時間)教科書を読み直して動画編集の基本について理解を深める 事後学習(2 時間)ロケハンをする	

第 12 回 期末課題制作② 編集(課題解決型学習、実習)

事前学習(2 時間)撮影データを整理して Mac に読み込んでおく

事後学習(2 時間)撮影をする

第 13 回 期末課題制作③ 編集、中間チェック(課題解決型学習、実習)

事前学習(2 時間)数人で途中経過をプレビューし意見交換する

事後学習(2 時間)担当教員からのフィードバックをもとに品質を高める

第 14 回 期末課題制作④ ブラッシュアップ、作品完成・提出(課題解決型学習、実習)

事前学習(2 時間)更に良い作品にするために何度もプレビューする

事後学習(2 時間)作品データを完成、データは E ラーニングより提出する

第 15 回 期末課題制作⑤ プレゼンテーション(課題解決型学習、発表)

事前学習(2 時間)プレゼンテーションを準備する

事後学習(2 時間)他の学生の作品を鑑賞し批評する

その他、1～15 回目を通して授業外で学習してほしいこと

・「技法」を意識して、日常流れている動画を別の視点で見る。

・センスを鍛えるために自主制作をする。

・疑問や知りたいことがあればオフィスアワー等を利用して積極的に担当教員に質問する。

成績評価方法

期末課題作品(40%) 授業毎の作品(30%) 授業毎の小テスト・レポート(30%)

成績評価基準

・映像表現の基本ルールが理解できているか。

・ツールを適切に使用できているか。

・映像表現の基本ルールを理解した上で、課題作品の制作ができているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 ■ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 ■ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

■ 授業時 ■ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

□ 定期試験時 ■ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(WEB デザイナー)

・実務経験と授業内容との関連性

(WEB デザイナーとしての業務経験を有する教員が、映像表現の技法について演習を行う。)

テキスト、参考図書

テキスト:河野緑「知識ゼロからはじめる Premiere Pro の教科書 CC 対応」ソシム株式会社 2019 年

参考図書:授業内で紹介する

その他(受講上の注意)

撮影は必要に応じて授業時間外に実施することがある。

授業を欠席した場合は、e ラーニングにて授業内容を確認し次回の授業までに課題を提出すること。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

企業と情報 (Business Activities and Informatics)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-OOC-2390	2	3 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 情報社会コース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
□自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
授業では、企業と(企業にとって人・モノ・金に次ぐ第 4 の経営資源といわれる)情報の関わりについて考察し、情報化社会における企業活動の概況や課題について理解を深めることを狙いとする。
授 業 の 到 達 目 標
・ホームページや新聞から企業に関する情報を収集し、自身の考えを述べることができる。 ・情報社会における企業のしくみや課題について説明することができる。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習 (PBL) ☐ 討議 (ディスカッション、ディベート) ☒ グループワーク ☐ 発表 (プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他 (具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回: 企業の形態とガバナンス 事前学習: 初回の授業では企業概要からわかることについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: 授業で課された企業理念について、レポートにまとめておくこと。(2 時間) 第 2 回: 組織文化と企業理念 事前学習: 次回の授業では組織文化の影響について考えるため、組織文化がもたらすものについて自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 3 回: マネジメント 事前学習: 次回の授業ではマネジメントの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 4 回: マーケティング 事前学習: 次回の授業ではマーケティングの役割について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 5 回: イノベーション 事前学習: 次回の授業ではイノベーションの必要性について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 6 回: 経営戦略 事前学習: 次回の授業では経営戦略について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 7 回: 事業戦略 事前学習: 次回の授業では事業戦略について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 8 回: ビジネスモデル①(グループワーク) 事前学習: 次回の授業では市場の開拓について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 9 回: ビジネスモデル ②(グループワーク) 事前学習: 次回の授業では付加価値創造について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 10 回: 情報セキュリティ 事前学習: 次回の授業では情報セキュリティについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間) 事後学習: わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2 時間) 第 11 回: 人事と雇用システム 事前学習: 次回の授業では人材育成について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2 時間)

事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第12回：メンタルヘルスとサステナビリティ
事前学習：次の授業ではメンタルヘルスマネジメントについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第13回：リーダーシップ
事前学習：次の授業ではリーダーシップの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第14回：日本経済と労働環境
事前学習：次の授業では日本の労働環境の課題について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第15回：まとめ
事前学習：次の授業では情報化社会における企業のあり方について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
成績評価方法
課題に対する活動内容・提出物(70%)平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。)
成績評価基準
・ホームページや新聞から企業に関する情報を収集し、自身の考えを述べることができるか。 ・情報社会における企業のしくみや課題について説明することができるか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
5) その他(自由記述：リアクションペーパーに対するフィードバックについて) ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
情報通信会社で管理職(人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等の業務を担当)経験のある教員が、情報化社会における企業活動の概況や課題について解説する。
テキスト、参考図書
必要に応じて、授業中に提示します。
その他(受講上の注意)
「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、前後したり変更する場合があります。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

ライティング技法 (Writing Strategies)			担当教員	野尻 昌明	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-AOO-2256	2	2 年後期	演習	選択	
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・マネジメントコース					
求める学習成果(教育目標)					
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
メディアにおけるライティングの違いを検証。各メディア特性を確認しながらメディア(ライティング)を制作し効果を学ぶ。最終的にデジタルメディアに集結するコミュニケーションを、企画制作する。
授 業 の 到 達 目 標
コミュニケーションメディアに関する企画力・制作能力を高める。 コミュニケーションの目的とする各種ベクトルを把握しながら、正しい表現能力を会得する。
アクティブ・ラーニング
☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート) ☒ グループワーク ☒ 発表(プレゼンテーション) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回:コミュニケーションとコピーライティング 事前学習:コミュニケーションツールとしてのコピー(広告用の言葉・フレーズ・惹句)について理解しておくこと。(2 時間) 事後学習:授業中に示された各種コピーについてのメモをレポート化しておくこと。(2 時間) 第 2 回:コピーライティング概論(新聞・TV・ポスター・web・各種) 事前学習:授業前に各媒体から興味のあるクリエイティブ作品を選択、記録しておく。(2 時間) 事後学習:授業後、媒体特性を理解し選択したクリエイティブ作品についての分析を行う。(2 時間) 第 3 回:コピーライティングの制作実践 事前学習:前回与えられた課題について、複数のキャッチコピーと説明を用意しておく。(2 時間) 事後学習:授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。(2 時間) 第 4 回:作品の評価・ミーティング 事前学習:選択したコピーについての十分な説明を準備しておく。(2 時間) 事後学習:評価されたコピーについてさらにブラッシュアップを行う。(2 時間) 第 5 回:コンセプトの必要性(クライアント設定～制作～効果) 事前学習:予告されたクライアントについてのコンセプト(企業・地域・広報等)を準備しておく。(2 時間) 事後学習:学習したブラッシュアップ法によって、コンセプトを再度確認する。(2 時間) 第 6 回:設定クライアント(製品)①におけるミーティング(グループワーク) 事前学習:設定クライアントについての予備知識を用意しておく。(2 時間) 事後学習:設定クライアントに類似した表現方法を図書館などで調査する。(2 時間) 第 7 回:制作実践(課題1/コンセプトライティング) 事前学習:設定クライアントがコピーを必要とする理由・目的を分析しておく。(2 時間) 事後学習:設定したコンセプトが正しいかどうかを、クライアント確認とともに精査する。(2 時間) 第 8 回:制作実践(課題1/キャッチコピーライティング) 事前学習:前回与えられた課題について、複数のキャッチコピーと説明を用意しておく。(2 時間) 事後学習:授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。(2 時間) 第 9 回:制作実践(課題1/ボディコピーライティング) 事前学習:前回与えられた課題について、複数のボディコピーと説明を用意しておく。(2 時間) 事後学習:授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。(2 時間) 第 10 回:制作実践(課題1/ライティング発表) 事前学習:選択したコピーについての十分な説明を準備しておく。(2 時間) 事後学習:評価されたコピーについてさらにブラッシュアップを行う。(2 時間) 第 11 回:設定クライアント(製品)②におけるミーティング(グループワーク) 事前学習:設定クライアントについての予備知識を用意しておく。(2 時間) 事後学習:設定クライアントに類似した表現方法を図書館などで調査する。(2 時間)

第 12 回:制作実践(課題2/コンセプトライティング)

事前学習:設定クライアントがコピーを必要とする理由・目的を分析しておく。(2 時間)

事後学習:設定クライアントに類似した表現方法を図書館などで調査する。(2 時間)

第 13 回:制作実践(課題2/キャッチコピー&ボディライティング)

事前学習:与えられた課題について、複数のキャッチ&ボディコピーと説明を用意しておく。(2 時間)

事後学習:授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。(2 時間)

第 14 回:制作実践(課題1~2についての総合企画書)

事前学習:課題1~2についてのプロセスを考慮しながら、企画骨子をまとめておく。(2 時間)

事後学習:指定された企画シートに沿って内容をまとめる。(2 時間)

第 15 回:課題1~2における企画プレゼンテーション制作準備(プレゼンテーション)

事前学習:総括した企画を1枚のシートにまとめる。(2 時間)

事後学習:担当教員とのディスカッション後、プレゼンテーションツールを作成しておく。(2 時間)

第 16 回:最終試験

(※受講者数・状況により変更の場合あり)

成績評価方法

課題への取り組み・定期試験(50%) 課題成果(30%) 平常点(20%)

平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。

成績評価基準

メディアを利用しての実践的制作プロセス(ライティング・コンセプトメイキング・企画)のスケジュール把握とデジタルツールへの効果的・効率的な情報運用。

コミュニケーションメディアに関する企画力・制作能力を高めることができるか。

コミュニケーションの目的とする各種ベクトルを把握しながら、正しい表現能力を会得することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

3) 小レポートに対するフィードバックについて

■ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて

■ 定期試験時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて

□ 授業時 □ 仁大 eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

・経歴

(広告ディレクター)

・実務経験と授業内容との関連性

(広告ディレクターとしての業務経験を有する教員が、各メディアにおけるコピーライティングの技法について演習を行う。)

テキスト、参考図書

使用しない

その他(受講上の注意)

原則としてコミュニケーション技法 I (2 年前期)を履修したものに限る。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

プロジェクト・デザイン演習 (Practice in Project Design)			担当教員	吉村 正照
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CO-AOO-2363	2	3 年 通 年	演 習	選 択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・マネジメントコース				
求める学習成果(教育目標)				
コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、課題解決のための構想力と判断力を身につけます。				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力				

授 業 の 内 容
2 年生～4 年生の 3 年間という長期的展望に立つて、年度を重ねながら最終的に学年を超えたコラボレーションでプロジェクトを生み出し、実現する授業に育てていく。プロジェクトはチーム単位で学内外の諸課題の解決に取り組み、学生自らが主体的にアイデアを出し、目標・計画を立て、実行し、評価し、改善・革新していく。
授 業 の 到 達 目 標
学生自ら授業・プロジェクトを生み出し、展開していけること。学生相互に学び合うだけでなく、異なるプロジェクトの間で学び合い、多様な学生・プロジェクトが触発しあいながら、次年度の授業・プロジェクトに向けた基盤・展望・意欲が形成できること。
アクティブ・ラーニング
■課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート) ■グループワーク ■発表(プレゼンテーション) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述:)
授業計画及び授業外の学修方法
第 1 回: オリエンテーション、プロジェクトチームの編成 事前学習: 前年度の企画内容をまとめておく(2 時間) 事後学習: チームメンバーと交流し、互いの得意な領域を確認しておく(2 時間) 第 2 回: 企画内容、実施計画の検討(グループワーク) 事前学習: 企画内容、実施計画についてのグループ討議ができるようにアイデアをまとめておく(2 時間) 事後学習: 企画の立案、修正を行う(2 時間) 第 3 回: 実施計画書の作成(グループワーク) 事前学習: 企画内容、実施計画についてのグループ討議ができるようにアイデアをまとめておく(2 時間) 事後学習: 実施計画書の加筆修正を行う(2 時間) 第 4 回: 実施計画書のレビュー(グループワーク) 事前学習: レビューのための事前準備をする(2 時間) 事後学習: レビューの結果に沿って、実施計画書を加筆修正し、承認されるレベルに仕上げる(2 時間) 第 5 回: 実施計画書のプレゼンテーション(グループワーク) 事前学習: プレゼンテーションの事前準備をする(2 時間) 事後学習: フィードバックの結果に沿って、実施計画書を加筆修正する(2 時間) 第 6 回: プロジェクトの実施準備①(グループワーク) 事前学習: 企画に必要な知識・技術を習得しておく(2 時間) 事後学習: 進捗を確認し、遅延がないように準備をすすめる(2 時間) 第 7 回: プロジェクトの実施準備②(グループワーク) 事前学習: 企画に必要な知識・技術を習得しておく(2 時間) 事後学習: 進捗を確認し、遅延がないように準備をすすめる(2 時間) 第 8 回: プロジェクトの実施準備③、中間レビュー(グループワーク) 事前学習: 中間レビューの事前準備をする(2 時間) 事後学習: 進捗を確認し、遅延がないように準備をすすめる(2 時間) 第 9 回: プロジェクトの実施準備④、最終レビュー(グループワーク) 事前学習: 最終レビューの事前準備をする(2 時間) 事後学習: 最終チェックをして完成度を高める(2 時間) 第 10 回: プロジェクトの実施①(グループワーク) 事前学習: 実施当日の計画を確認しておく(2 時間) 事後学習: 実施結果について、反省をまとめておく(2 時間) 第 11 回: プロジェクトの評価、改善① 事前学習: 実施結果の評価および改善策について、グループ討議ができるようにアイデアをまとめておく(2 時間)

事後学習:企画を改善する(2 時間) 第 12 回:プロジェクトの実施準備⑤(グループワーク) 事前学習:企画に必要な知識・技術を習得しておく(2 時間) 事後学習:最終チェックをして完成度を高める(2 時間) 第 13 回:プロジェクトの実施②(グループワーク) 事前学習:実施当日の計画を確認しておく(2 時間) 事後学習:実施結果について、反省をまとめておく(2 時間) 第 14 回:プロジェクトの評価、報告書・ポスターの作成(グループワーク) 事前学習:報告書・ポスター作成のためのコンテンツを準備しておく(2 時間) 事後学習:報告書・ポスターの完成度を高める(2 時間) 第 15 回:プロジェクトの報告(グループワーク) 事前学習:報告の事前準備をする(2 時間) 事後学習:フィードバックの結果に沿って、報告書やポスターを修正し、次年度の参照資料として掲示・保存をする(2 時間)
成績評価方法
課題に対する取り組み内容・提出物(80%)、平常点(20%)
成績評価基準
・プロジェクトを生み出し、展開できているか。 ・プロジェクトチームに貢献できているか、また、プロジェクトチームとして成果がでているか。 ・プロジェクトの進め方(基本)について説明することができるか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 ■ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 ■ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大 e ラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
・経歴 (WEB デザイナー) ・実務経験と授業内容との関連性 (WEB デザイナーとしての業務経験を有する教員が、企画制作について演習を行う。)
テキスト、参考図書
特に使用しない。参考となる資料は必要に応じて配布する。
その他(受講上の注意)
一貫してチーム編成にて作業を進行する。価値観の違いを面白がり、触発しあい、生み出しあう姿勢を持つこと。授業の進捗に応じて柔軟に内容を変更していく。詳細説明は第 1 回に行うので、必ず出席すること。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。